認可日1995年8月10日　第三種郵便物許可　（毎週1回水曜日発行）
2019年09月25日発行　通巻第7774号　SSKS　ストロークグループニュース

ストロークグループニュース

No. 48
2019. SEP

CONTENTS

・ＮＰＯ法人ストローク会　１Ｐ
◇理事会および総会を開催
・生きづらさをかかえた少女たち　２Ｐ
◇～若草プロジェクトのこと～
（一社）若草プロジェクト統括理事
NPO法人ストローク会理事長・村木太郎
・ストローク・サービス　３Ｐ
◇働く仲間たちからのご挨拶
生活支援員・都丸弘美
職業指導員・平川章子
・社会福祉法人結の会　４Ｐ
◇利用者と職員が力を合わせて
講師を務めました
施設長　松田暁子
メンバー・カッコ／LynnLynn
・ストロークグループ紹介　４Ｐ

ＮＰＯ法人ストローク会

◇理事会および総会を開催

ストローク会は去る３月30日に理事会を、5月28日には第19回となる定時総会を開催しました。

理事会では新年度の事業計画並びに活動予算についての審議がなされました。新年度の事業計画では、就労継続支援Ａ型事業所「ストローク・サービス」（主としてビルメンテナンス業）の運営を中核事業とし、（公財）ヤマト福祉財団向けＤＶＤの作成や「日曜サロン」、「つどい」の開催、ＮＰＯ法人全国精神保健職親会の調査等の事業を従前どおり行っていくこととなりました。

Ａ型事業所においては、令和元年度の基本報酬単位が昨年度と同様の１日平均労働時間４時間以上５時間未満の586単位（1単位＝11.14円）で、これに賃金向上達成指導員加算の70単位を上乗せされた656単位が報酬本体の単位数となりました。パートナー（利用者）が働く清掃現場については昨年度と変わらず21か所で行われています。また、今年度は障害福祉サービス第三者評価を受審する予定となっており、そこで抽出された課題をもとに、さらに支援・サービスの向上に役立てていく予定です。

令和元年度の活動予算は、法人全体でほぼ前年並みの7,900万円規模を見込んでいます。

５月に開催された総会においては、Ａ型事業所に対する新宿区からの運営費補助金が当初の見込みより減額となることを踏まえた令和元年度の補正予算案が示されるとともに、平成30年度の活動報告および決算報告が行われ、いずれも満場一致で承認・可決されました。

法人本部事業としては清掃事業を中心に、（公財）ヤマト福祉財団向けＤＶＤの制作や「日曜サロン」、「つどい」の開催、障がい者の就労についての調査研究への協力などの事業を実施した旨が報告されました。Ａ型事業所からは、去る２月に行われた新宿区による実地検査で指摘された事項への対応状況や、パートナー支援の現況等が報告されたほか、５月末をもって利用者負担減免の措置を終了する手続きを完了したことが報告されました。また、長年の課題である人材不足への対応について、パートタイム清掃員１名を職員に登用するとともに、新たに清掃員を２名採用したことが報告されました。

決算については、Ａ型事業所の経営状況が堅調に推移していることが報告されました。

生きづらさをかかえた少女たち
◇～若草プロジェクトのこと～

(一社)若草プロジェクト統括理事
ＮＰＯ法人ストローク会理事長
村木　太郎

関わりのあるいくつかの社会的事業の中で、ストローク会と並んで力を入れているのが、生きづらさをかかえる若い女性や少女たちを支援する「若草プロジェクト」の活動です。

日本の社会がなんとなく飽和し停滞する中で未来を担う若い女性や少女たちが、とても危うい状況にあることを危惧しています。ＡＶ被害やデートＤＶなど彼女たちが巻き込まれる事件が続き、ＳＮＳを通じて自殺志願者を集め９人の若い命を奪った座間事件も記憶に新しいところです。家出や援助交際、ＪＫビジネスは「自己責任」「モラルの低さ」が言われますが、実際には虐待から逃れるための家出だったり、性暴力で傷ついていることも多く、また、背景に甘言を弄し、少女たちを利用する大人たちがいることもよくあります。このところ連続して起きている児童虐待事件についても、それを許した若い母親たちへの非難の声も大きいですが、背後には必ず彼女たちに対する暴力と支配の構造があります。事件に巻き込まれたり性的被害を受けた女性たちの中には、軽度の知的障害や発達障害を持っていてなかなか社会に溶け込めずに、こうした被害に遭っている子たちがたくさんいます。性的被害や虐待がトラウマになって、乖離症状や鬱を発症することも珍しくありません。

根の深い悲惨な結末をもたらしかねないことなのに、社会の認識はまだまだ薄く、特に男女差が著しくて、男性主導の社会では問題の所在が無視されがちです。私も、この活動を通じて勉強するまでは、今の日本でこんなことが起きているとは想像もしていませんでした。

こうした状況を少しでも改善していこうと、３年前に、作家で僧侶の瀬戸内寂聴さんや妻の村木厚子、弁護士の大谷恭子さんたちと、一般社団法人若草プロジェクトを立ち上げ、活動を始めました。活動の柱は「つなぐ」「まなぶ」「ひろめる」の3つです。「つなぐ」では、ＬＩＮＥ相談を通じて少女たちと支援者をつないだり、企業と支援の現場とつなげる活動を行っています。例えば、ファーストリテイリングと連携協定を結び、ユニクロの肌着を全国の約130のＤＶシェルターや自立援助ホーム、更生保護施設などに送る活動をしています。また、家庭内暴力などで行き先の無い女の子たちの避難場所として若草ハウスも作りました。

「まなぶ」では、「女の子たちの『今』を知り『信頼される大人』になるための連続講座」をこれまで10回開催しました。取り上げたテーマはＡＶ被害やＤＶ、ＳＮＳの課題と活用、若年妊娠など多岐にわたります。「ひろめる」では毎年秋にシンポジウムを実施しており、今年は10月22日（火､祝）に大妻講堂で、作家の山内マリコさんを基調講演にお招きして開催します。

生きづらさをかかえた若い女性や少女たちの状況を知ると、障害のある人たちの状況とよく似ているところがいくつもあると感じます。一つ目は、「どうせ自分なんか」「自分は何もできない」という自信のなさ、自己肯定感の低さです。もう一つは、社会とのつながりや人間関係の希薄さです。社会で自立し、幸せに暮らしていくためには、この二つの克服、つまり、自信をつけ、自己肯定感を高めること、社会とのつながりを強め、さまざまな人との人間関係を作ること、がとても大事です。「働く」ことはこの二つを身につけていく上で欠かせません。若草プロジェクトはまだ就労支援までは到達していませんが、いずれストローク会を一つの範として、少女たちが就労を通じて社会で自立していくお手伝いをしたい、と考えています。

若草プロジェクトのシンポジウム（2018.6.2）

ストローク・サービス◇働く仲間たちからのご挨拶

生活支援員・都丸弘美

「特技は人と仲良くなることです」　初めまして、都丸弘美と申します。

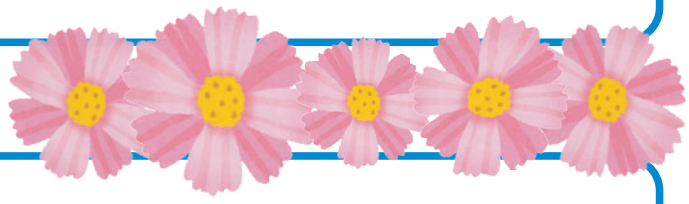
会社を退職後、上京してから18年間飲食業に携わってきましたが、廃業のために清掃のバイトをしながら就活をしていた２年前の２月に、ハローワークでストローク会の求人を見つけ何となく心惹かれて応募しました。

当初は午後だけのバイトで採用されましたが、１年後にはフルタイムの清掃員になり、昨年の８月から晴れて職員として迎えていただきました。当時50歳を目前にして、経験のない職業への転職で不安と緊張で押しつぶされそうでした。清掃の作業も自分が思っていた以上に奥が深く、様々な現場の状況に合わせて作業を覚えていくことには苦労しました。就労支援についても何も知識がありませんでしたし、今も日々の経験の中で少しずつですが勉強中です。

ストローク会の職員のみなさんからは、懇切丁寧に段階を踏んで仕事を教えていただいていますし、雰囲気も溶け込みやすく働きやすい職場だと思っています。前職の飲食業では、お客様の愚痴や相談、楽しかったことや悲しかったことなど話を聴くことが一つの大きな役割でした。こうした経験が今後の仕事の中で少しでも活かせると良いと思っています。

趣味は、雑学番組や健康番組を見ること、特産品や話題の品をお取り寄せすること、食べ歩き、美味しいお酒を飲むことです。美味しいつまみのある、あまり高くないお店がありましたら皆様是非教えてください。

年齢的にはだいぶ大人ですが、まだまだ未熟でご迷惑やご面倒をおかけすることが多々あ



職業指導員・平川章子

「お世話になります」
令和元年５月にストローク・サービスに入りました、平川です。

ストローク・サービスに入って３ヶ月が過ぎました。始めの頃は緊張ばかりして、なかなか自分から積極的に行動が起こせず、周りの職員の方のサポートのお陰で少しずつ慣れていきました。もう今は夏の終わりです。夏の終わりといえばフジファブリックさんの曲の「若者のすべて」を聴きたくなります。好きなことは音楽を聴くことと、ものまね番組を観ることです。最近のものまねでは、りんごちゃんの吉幾三さんのものまねがマイブームです。あと、ミラクルひかるさんがとても好きです。

そんな私ですが、清掃の仕事を通じてきれいにすること、お客様に喜んで頂けることにやりがいを感じます。周りの皆様に支えられ、なんとかやっている今日この頃ですが、まだまだ、技術面でも対応面でも未熟な私です。もっと日々学び向上していけるよう前向きに明るく、このご縁を大切に頑張っていこうと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。簡単ではございますがここまで読んで頂き、有難うございました。

認可日1995年8月10日　第三種郵便物許可　（毎週1回水曜日発行）
2019年09月25日発行　通巻第7774号　SSKS　ストロークグループニュース

社会福祉法人結の会　◇利用者と職員が力を合わせて講師を務めました

◆２月６日に「新宿区障害者福祉事業所等ネットワーク」の福祉職員向け勉強会の講師を、２月19日は（一財）中野区障害者福祉事業団主催「障害者の自立の可能性を伸ばす支援とは」と題したセミナーの講師を、利用者と職員とで務めました。職員の意識改革により利用者の主体性を尊重した所内作業に変えた取り組みや、様々な所外作業現場を活用した就労支援の取り組みなどをご紹介しました。発表当日を迎えるにあたり打ち合わせを重ね、昼休みに何度も練習をして他の利用者や職員の協力を得ながら準備をしました。（松田）

勉強会に参加し、「職員主導の所内作業」から「利用者と共に取り組む所内作業」へと改革した経過と改革後の私の変化を話させていただきました。多数の人前で話すのは初めてでしたが松田さんと一緒なので心配ありませんでした。スピーチの練習中は充実した日々を感じていました。勉強会が終わってから「感動しました。良かったです。」と２名の方が私の所に来てくれました。参加者の方々が真剣に聞いてくださったと思うと嬉しかったです。勉強会に参加しよい経験をしました。私は職員の取り組みで仕事に対する姿勢が変わりました。　（カッコ）

２月６日の勉強会

２月19日のセミナー

支援者の前で、私たちの活動を発表するという貴重な体験ができました。発表したことで「所外活動がたくさんあるのだなあ、それを遂行出来るように職員の方々が細かく気を配って下さっているのだなあ。」と改めて感じました。就労支援では、日々の訓練に留まらずもっと深いところで「トライ＆エラーもありだよ」というスタンスで見守られ、「入口だけでなく就労という出口も大切」との信念が伝わってきます。発表しながら懐の深さを感じました。（LynnLynn）

◆６月４日と12日の２回にわたり、「障害者差別解消を推進するための職員研修」の講師を利用者と職員とで努めました。『精神医療史と私』と題し、明治時代からの精神医療史を利用者の体験談とともに振り返り、様々な事件の度に制度改正がなされてきたことや、根強い偏見により障害当事者や家族が苦しんでいることをお話ししました。後日アンケート結果をいただき、「当事者の話を聞けて良かった」「誰にでもなりうる病であることを学んだ」などの声をいただき、とても嬉しかったです。　（松田）

６月４日と12日の
新宿区役所職員研修

ＮＰＯ法人ストローク会

★平成24年度から“就労継続支援Ａ型事業所”「ストローク・サービス」を開所しました。
その他の事業として精神障がい者の就労・生活に関する支援、ニュースの発行、ＮＰＯ全国精神保健職親会と協力して、就労に関する調査、日曜サロン”つどい”等を実施しています。
★会員数：賛助会員75人、正会員13人、団体３

法人本部／ストローク・サービス
〒161-0031東京都新宿区西落合2-20-16POEMビル1F
TEL:03-5996-9533／FAX:03-3954-11300

（社福）結の会

★オフィス クローバー
（就労継続支援Ｂ型事業所）
一般企業での就労及び期間付きの就労移行支援の利用では自信が持てない人に、働く場を提供し知識及び能力向上のために必要な訓練を行います。

〒169-0075　新宿区高田馬場3-18-25
第一康洋ビル7階
TEL：03-3365-4177／FAX：03-3365-4178
E-mail：yuinokai@axel.ocn.ne.jp
URL：https://yuinokai-clover.com

発 行 人：障害者団体定期刊行物協会　　東京都世田谷区祖師谷３－１－17
編 集 人：NPO法人ストローク会　〒161-0031　東京都新宿区西落合２-20-16 POEMビル１F
E-mail：info@stroke-kai.jp　URL：https://stroke-kai.jimdo.com/
定　　価：100円